

安心して学べる環境づ 次代を担う子供たち の健やかな成長を願

理性と教養に欠如し、そう 断片的知識のみがあっても 勉強と追い回される中に 帰宅してからもまた勉強 族の増加、学校と塾通い ことが重要であると考える る傾向が強いようである。 した中から子供が非行に走 族化の進行、夫婦共稼ぎ家 済情勢の変化に伴い、核家 が、近年、社会構造及び経 くりの実現を推進していく 人間性を豊かにするための

ているのか。

学校、社会の三者の責任で 態とその成果について伺う。 あると考えるが、そこで に育成することは、家庭 果的と思われる保護者に対 ❶未然防止と早期発見に効 ールカウンセラーの活動実 本町に配置されているスク 次代を担う青少年を健全

する広報活動はどうしてい

❷どのような相談内容が多

いのか。 身分か、各学校に配置され **6**心の教室相談員はどんな 町では1名だが、これで十 ●カウンセラーの配置は本 思うが、実態はどうか。 登校の児童・生徒がいると ❸潜在的ないじめによる不 分と言えるのか。

見逃さないようにすること ので、子供たちのサインを 校はさまざまな状況にある の把握に努めている。不登 どんな子供たちがいるのか に学級担任、学校すべてで ている。 が一番大事なことだと考え に行っていないが、学校だ より等を活用、あるいは常 教育長・北京報活動は特

が、 なか出てきてくれないとい 研修会といっても親もなか うことも実態としてある ケースバイケースで一概に 保護者に対する研修会は、 カウンセラーを中心に

> ❸30日以上継続している欠 他7・8%となっている。 が41・2%、教職員が36・ ているが、平成13年度が14 9%、保護者が14%、その る。相談者の数は児童生徒 形でやれるのか検討したい。 が不登校に関する相談であ 9件で、そのうち204件 相談件数は平成15年度25 ❷スクールカウンセラーの 席者を不登校児童生徒とし 平成14年度が23名、平

杉 山 晴 夫 議員

ラーの配置は7・5%、

-ルカウンセラ

しながら、研修会がどんな 校全体で取り組む体制づく 中心とした取り組みや、 現在6名である。 成15年度が12名、 スクールカウンセラーを 今年度は

ど、適切な対応をしていき 防止につながる取り組みな 発見・早期対応による未然 導の推進を図り、学校復帰 ど、一人ひとりに適した指 つけさせる契機づくりな 則正しい生活リズムを身に きっかけづくり、家庭で規 味わい元気になれるような もたちが達成感・満足感を るような環境づくり、子ど 学校復帰に向けて歩み出せ 徒も予想されることから、 減少している状況にある。 不登校の児童生徒数は近年 ったケースなどもあって、 応により不登校にならなか 校できるようになったケー 生徒が徐々にではあるが登 りによって、不登校の児童 不登校児童生徒が主体的に ることや、潜在的な児童生 6名の不登校児童生徒がい に向けた取り組みや、早期 しかし、現実的には現在 初期段階での手早い対

**–**თ

❹町内4中学校のうち、 今

たところで公職学校とは違

まっく心の相談教室といっ

相談をする、

あるいは



った形の中で相談を受けて う少しいた方がいいのかも いる状況である しれないが、なかなかそこ 充分かと言われると、

年は札内中学校を拠点校と

してスクールカウンセラー

1名が配置されている。

北海道におけるカウンセ

中学校と札内東中学校に各 **6**心の教室相談員は、幕別 1名を配置し、 と連携をとっている。 カウンセラ

ほかの中学校にも回って歩 内中学校に席を置きながら 拠点校方式であるから、 が幕別町である。

幕別町は

えている。

ているが、そのうちの一つ

ないので、これは地道な中

の相談まで来ることができ

でやっていくしかないと考

人で、約190校で勤務し